

めぐみイエス・キリスト教会

2025年4月20日(日)第三主日イースター礼拝
午前10時より
週報「通算第755号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.53 ルカの福音書22章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条・主の祈り・前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主を誉め讃え続けよ」

【聖書朗読】 マタイの福音書28章1節～15節 (p. 63下段)

【礼拝説教】 《週の初めの日の明け方》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(マタイの福音書28章1節～15節)

28:1 さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。

28:2 すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。

28:3 その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。

28:4 その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。

28:5 御使いは女たちに言った。「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。

28:6 ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。

28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝

えました。」

28:8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。

28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現われた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、私の兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこで私に会えます。」

28:11 彼女たちが行き着かないうちに、番兵たちが何人か都に戻って、起こったことをすべて祭司長たちに報告した。

28:12 そこで祭司長たちは長老たちと共に集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、

28:13 こう言った。「『弟子たちが夜やって来て、われわれが眠っている間にイエスを盗んで行った』と言いなさい。

28:14 もしこのことが総督の耳に入っても、私たちがうまく説得して、あなたがたには心配をかけないようにするから。」

28:15 そこで、彼らは金をもらって、言われたとおりにした。それで、この話は今日までユダヤ人の間に広まっている。

●ポイント1. その前日となる「安息日」での出来事

※マタイの福音書27章62節～66節「アントニア要塞において」(新約p.63)

27:62 明くる日、すなわち、備え日の翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラトのところに集まって、

27:63 こう言った。「閣下。人を惑わすあの男がまだ生きていたとき、『私は三日後によみがえる』と言っていたのを、私たちは思い出しました。

27:64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうでないと弟子たちが来て、彼を盗み出し、『死人の中からよみがえった』と民に言うかもしれません。そうすると、この惑わしのほうが、前の惑わしよりもひどいものになります。」

27:65 ピラトは彼らに言った。「番兵を出してやろう。行って、できるだけしっかりと番をするがよい。」

27:66 そこで彼らは行って番兵たちと共に石に封印をし、墓の番をした。

◎先週のメッセージ【主イエスとバラバ・イエス】

《今週は受難週にあたります。本来ならば、「シュロの祝日」となり、主イエスが、子ロバに乗って、エルサレムへ入場する日となります。

その日から五日目の金曜日の真夜中に、主イエスはゲッセマネの園において、祭司長と長老たち、ローマ兵によって捕らえられます。

それから、主イエスは、ユダヤの裁判を二回受け、死刑を宣告され、ローマ総督ポンティオ・ピラトの所に連れて行かれます。

まずピラトは、個別に事情徴収をします。そして、主イエスがガリラヤ出身であることを知り、その時にエルサレムに来ていたヘロデ・アンティパスの元へ送ります。しかし、ヘロデは主イエスを送り返します。

ついに群衆の面前において、総督ピラトによる最終裁判が、アントニア要塞において行なわれました。それが、今日の聖書箇所です。

「おまえたちは二人のうちどちらを釈放してほしいのか。」

「バラバだ。」

「では、キリストと呼ばれているイエスを、私はどのようにしようか。」

「十字架につけろ。」

「あの人がどんな悪いことをしたのか。」

「十字架につけろ。」

ついに、群衆の声がうち勝ちます。そこでピラトはバラバを釈放し、イエスを十字架につけるために、部下のローマ兵に引き渡します。

伝承によりますと、バラバは、ローマに対して武力による謀反を企てた政治犯であったようです。その後、バラバがどうなったのかについては、何も分からないのが現状ですが、私は救われたと信じます。

所で、このバラバこそ私たち一人一人を表わしているのではないのでしょうか。本来ならば、自分の罪によって死ぬべき所を、何と代わりに主が十字架に掛かって死んで下さったのです。私が何かをしたからではなく、ただ恵みによって、私は刑罰を免れ、赦されたのです。》

◎お知らせ

※次回は、2025年4月27日午前10時より、平常通りに行ないます。

